



上河内地域学校園 図書だより

令和4年度第2号（2月発行）
 宇都宮市立上河内東小学校
 宇都宮市立上河内西小学校
 宇都宮市立上河内中央小学校
 宇都宮市立上河内中学校



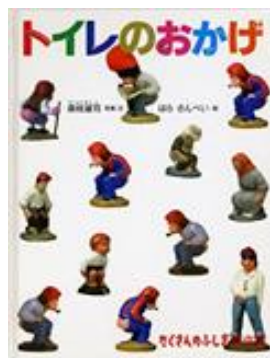
宇都宮市では、市内全ての市立小・中学校で「地域学校園による小中一貫教育」を実施しています。学校図書館担当からは、4校の取組などの様子を「上河内地域学校園 図書だより」としてお届けしています。今回は、各学校の司書おすすめ（S D G s）に関する本を紹介します。（保護者の皆様へ お子様と一緒に読みください。）

上河内西小学校 『世界をすくう虫のすべて』 内山昭一/著



今、地球規模で人口増加や温暖化が問題になっています。これからも、豊かで幸せな生活が続くようにするためにはどうしたらいいでしょうか。昆虫食は、こうした問題を解決する切り札として注目されています。この本では、食べることができる昆虫を紹介しています。なかでも、おいしい虫トップ5は、1番セミ、2番ハチ、3番カミキリムシ・・・といったように、昆虫食が楽しくおいしそうに書かれています。

上河内東小学校 『トイレのおかげ』 森枝 雄司/写真・文



実はトイレってとっても重要な場所なんです。きちんと管理されたトイレがないと、汚い水が川や井戸にまざって病気になることもあるし、犯罪にまきこまれたりすることもあります。日本のように清潔なトイレがいつも使える国は数えるくらいしかないのです。この本には世界のトイレと歴史がのっています。本当に良いトイレってどんなものか考えてみませんか？

上河内中央小学校

『プラスチックのうみ』

ミシェル・ロード/著



ペットボトルやビニール袋など私たちの身の回りにはたくさんのプラスチック製品がありますね。プラスチックは安く作ることができてとても便利ですが、世界中で毎年800万トンものプラスチックがごみとして海に流れ込み、海にすむ生き物たちを傷つけたり、命をうばったりしています。プラスチックごみの海洋汚染を考えるきっかけになる絵本です。

上河内中学校



『移動するものたち』 イッサ ワタナベ/著

「移民」「難民」をテーマにした字のない絵本です。この美しい絵はペルーの作家が書きました。過酷な現実が表されています。希望を追って歩く動物たちは、深い暗闇のような絶望から逃げることができるのでしょうか？たどり着いた場所でみんなが幸せになれるように願いたくなります。日本には平和ですが、今、戦争をしている国があり、世界的な問題になっています。その国の人々の気持ちがわかる本です。